



日 口 交 流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



第21回日本文化交流団

安部 花子

10月6日～12日、第21回日本文化交流団に同行いたしました安部と申します。今回は着物・茶道・折形の先生方とともに、私は風呂敷の講師として総勢6名での日本文化交流出張に同行させていただきました。

今までロシアには観光客としてしか訪れたことがなかった私にとって、今回ほど人々の親切さや温かさにたくさん触れた機会はありませんでした。このような世界情勢、日本文化の講習会なんて全然人が集まらないのではないかと不安な気持ちでいっぱいのまま出発当日を迎えましたが、到着してから目にしたのは、会場の椅子が足りず立ち見までいる参加者、つたないながらも一生懸命日本語で話しかけてくれる子どもたち、温かいお茶や食事でもてなし懇談の場をもってくださいる地元の交流協会や施設スタッフの皆様、そしてこの日のために一生懸命練習してくれたのか、たった6人の私たちのために、伝統的な歌と踊りで大歓迎してくれる大勢の子どもたち…自分は何を不安に思っていたんだろう。世界情勢がどうあれ、日本文化に興味をもって足を運んでくれる人がこんなにもいるということ…講習を行うにあたって、この事実は大きな自信となりました。政治に左右されない「文化」の偉大さを痛感した出来事です。

茶道講習では、日本から持参した和三盆糖を使用し、干菓子木型で型抜きをするところから体験してもらおうという、日本でもなかなか体験できないような企画を実施。パンッと型から抜いた瞬間、若草色のブドウと薄桃色の紅葉のかたちをした美しい干菓子が現れ、歓声が上がりました。はじめは苦くてなかなか抹茶を飲

み進められなかった子ども、お菓子を食べてからお茶を飲んでよいか分かったと、皆さん残さず飲んでお菓子も完食。日本語で「ありがとう」と言ってもらえて、おもてなしの心が伝わるとても嬉しかったです。

着物着付け講習では、着物の種類や着用場面だけでなく、着物の構造についても特製の見本を実際に分解・組み立てして説明。生徒の中からモデル役を1名請け負ってもらい、桜の花と御所車が描かれた美しい空色の振袖を着付けていきます。聴衆に見守られながら着付けられていくモデルさんは、嬉しいやら恥ずかしいやら、終始はにかんだような表情だったのが印象的でした。その場を見守ること十数分、あっという間に美しい振袖姿が完成し、スマホのシャッター音が鳴りやみません！モデルさんも一緒に写真撮影をせがむ子どもたちも、とても嬉しそうでした。

折形講習では、折形の歴史や概要を説明した後、2パターンの紙幣包みを本物の和紙で作っていく内容だったのですが、ここでとても印象的なことが起こりました。「今回は結構ですが、本来折形を作る際には手を清めたくて心で込めて作ります」と説明したとたん、子どもたちがカバンからウェットティッシュを取り出し一斉に手をふき始めたのです。相手の文化を尊重し、そのすべてを体験しようとする姿勢に、交流団一同感心しきりで帰路においても語り草となるような出来事でした。私たちも、異文化に触れる際に見習うべき姿勢です。

最後に、私が担当した風呂敷講習。交流団メンバーのサポートのおかげで、要の「真結び」をはじめ様々なバリエーションの包み方もすべてクリアし、無事にお土産のミニ風呂敷バッグを完成させることができました。一枚の布が様々な形に変化していく様子に驚き、さらに実際に自分で再現することもでき、子どもたちの喜びもひとしおといった表情。準備の労力がすべて報われた瞬間です。

まだまだ書き足りないことがたくさんありますが、そのすべてが大変得たい貴重な機会でした。特に、滞在中の私たちを終日サポートして下さった、日本情報センター長のオディネツ・セルゲイ様には多大なる感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。